

オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）

令和4年8月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ほ場での発生状況に注意し、発生を確認したら防除しましょう！

1 発生生態

本種は1卵ずつ葉裏等に産卵するので、幼虫期に集団で食害することはありません。若齢幼虫期には展開中の新葉や花のつぼみに潜り込むことが多く、中齢幼虫期以降は莢や果実の内部、茎の中や結球の内部へ移動します。終齢幼虫は土に浅く潜って蛹化します。

本種の寄主範囲は極めて広く、ダイズ、キャベツ、キク以外にもトマト、ナス、キュウリ、イチゴなどの野菜類、バラ、カーネーションなどの花き類で被害が記録されています。農作物への被害は、7～10月に最も多くなります。

2 発生状況

7月下旬に県内7地点12か所のキクほ場で行った巡回調査の結果、本虫の寄生茎率は0.08%（過去6年平均0.14%、前年0.57%）で平年並です。

フェロモントラップにおける本種の誘殺数は、ダイズ栽培地域では、概ね平年並です。豊橋市のキャベツ栽培地域と豊川市のキク栽培地域では平年よりやや多く推移しています。稲沢市のキク栽培地域では概ね平年並です（図1）。

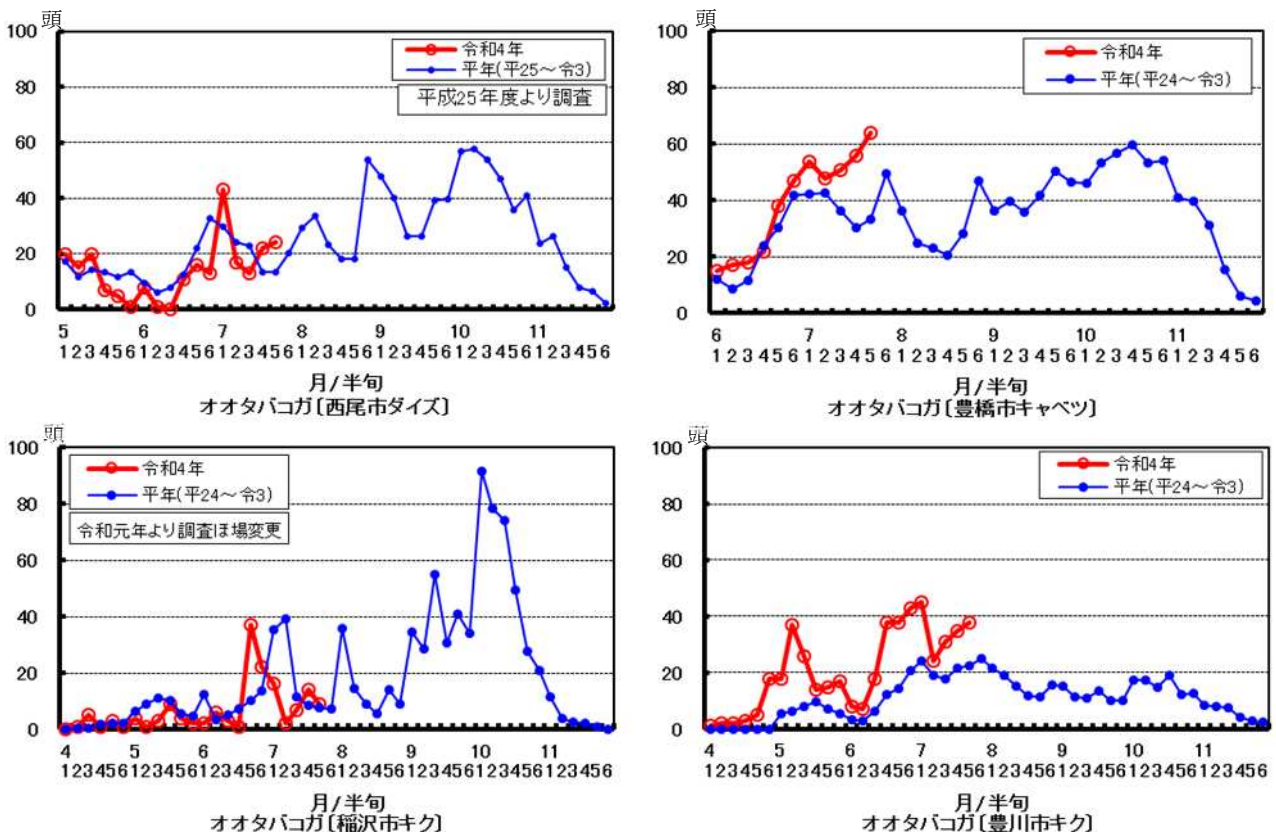


図1 フェロモントラップにおける誘殺状況

3 今後の予測

7月28日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と見込まれています。本種の増殖に適する天候が予想されるため、発生量が増加する可能性があります。

4 本種による被害と防除対策

ダイズにおける本種による被害は、ハスモンヨトウのように幼虫が集団で葉を食害せず、白変葉にならないため、ほ場外からの観察で発生を確認することは困難です。また、直接、莢を加害する（図2）ことから、被害が大きくなります。ダイズにおいては産卵が多い開花期までの防除が重要です。

茎、花蕾、果実及びキャベツ等の結球部に食入した幼虫や、発育が進んだ幼虫には薬剤の効果が著しく低下するため、若齢幼虫のうちに薬剤防除を徹底しましょう。

キクでは着蕾後に加害を受けると商品価値が著しく低下するため、着蕾以降は特に注意しましょう。

被害部位の残渣は、卵や幼虫が付着している可能性があるため、放置せず適切に処分しましょう。

表を参考に、発生を確認したら防除しましょう。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同じIRACコードの薬剤は連用しないようにしましょう。

表 オオタバコガに対する主な防除薬剤

| 作物名 | 農薬名 | 使用時期 | 使用回数 | IRACコード |
|----------|------------|----------|------|---------|
| だいず | アタブロン乳剤 | 収穫14日前まで | 2回以内 | 15 |
| | プレバソフロアブル5 | 収穫7日前まで | 2回以内 | 28 |
| | プレオフロアブル | 収穫7日前まで | 2回以内 | UN |
| キャベツ | プレオフロアブル | 収穫7日前まで | 2回以内 | UN |
| | アクセルフロアブル | 収穫前日まで | 3回以内 | 22B |
| | ディアナSC | 収穫前日まで | 2回以内 | 5 |
| きく | ヨーバルフロアブル | 発生初期 | 3回以内 | 28 |
| | ブロフレアSC | 発生初期 | 3回以内 | 30 |
| 花き類・観葉植物 | アフーム乳剤 | 発生初期 | 5回以内 | 6 |
| | プレオフロアブル | 発生初期 | 4回以内 | UN |

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、

https://www.jcpa.or.jp/assets/file/lab0/mechanism/2021/mechanism_irac03.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。



図2 ダイズの莢を食害する老齢幼虫



図3 キクの花蕾を加害するオオタバコガ幼虫